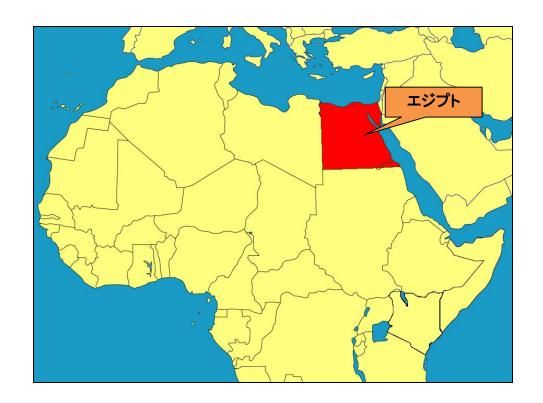
エジプトでの C 型肝炎の流行

2010年 11月8日 ProMed 情報 (Los Angeles Times)



最近発行された有名な米国医学雑誌(Proc Natl Acad Sci USA,2010 Aug 17)によると、エジプトは世界で最もC型肝炎のり患率が高い国で、毎年50万名以上がC型肝炎ウイルスに感染しており、その原因は低レベルの健康管理と誤った医療衛生であるとのことです。毎年、国民1,000名あたり約7名が感染しており、これはひとつの国として最も高い感染率です。エジプトでのC型肝炎の流行は1970年代に遡ります。当時、ナイル川デルタ地帯Nile Deltaおよびナイル川上流 Upper Egyptの保健当局が、水媒介疾患であるビルハルツ住血吸虫症 bilharzia の感染防止目的に、滅菌していない注射針を使用し駆虫薬を投与したことにより、C型肝炎の感染が拡がったと考えられています。エジプトウイルス肝炎委員会は、C型肝炎ウイルスの感染率は9.8%と発表していますが、実際の数字は15~20%と多くの医師や研究者は指摘しています。患者の多くのは、田舎に住む貧しい国民です。

「ProMED 調整者」C型肝炎は少なくとも11種類の遺伝子型に分かれていますが、エジプトでは4型が主流で、このタイプには残念ながら治療薬のインターフェロンαが効きません。